

「情」を持って「報せる」

「あまり広報紙は読まないんだよ。わたしにはちょっと難しくてねえ」。

縁側でお茶を振る舞ってくれたおばさんは、申し訳なさそうに頭を下げた。わたしが広報担当になって間もないころの、取材先でのことだ。

行政広報紙だもの、行政からの大事な情報を掲載するのは当然のこと。税金や制度、手続きなど、少しややこしい内容のものだってお知らせする必要がある。しかし、だからといって伝えたい相手に伝わらないのなら、発行している意味が無い。

ごめんなさい、謝るのはこちらのほうです、おばさん…と、わたしはおいしいお茶を味わいながらも、心の中でわびていた。

情報とは文字どおり愛情という「情」を持って「報(しら)せる」ものでなくてはならない。細かい数字や小難しい説明文でぎっしり埋めても、「これだけ掲載したのだから十分だろう」と、行政側が自己満足するだけ。独りよがりのラブレターのように、もらった側は迷惑極まりない。

わかりやすいのはもちろん、そのまちならではの色や匂い、住んでいる人々の息づかいや喜怒哀楽が感じられる紙面がいい。人や行事や事業、行政の各窓口をつなぐ、ちょっぴりおせっかいだ

けど頼りがいがある「お仲人」、それがまちの広報紙だと思う。



群馬県大泉町
元広報担当(担当歴5年)
加藤 博恵さん



悩み、考え、また悩む…
白紙からの
広報紙づくりは
いつもその繰り返しです

せ つかく提供していただいた情報や取材した出来事も、うまく掲載できなければ、読者には伝わりません。そこで、責任重大かつ困難な作業となるのが「編集」です。ここで広報ふくちの編集スタイルとその「こだわり」を一部ご紹介いたします。

練り上げる企画
情報を整理し、どのように掲載するかを考えます。単に知らせるだけでなく、考えていただく、行動へとつながる「きっかけ」となるよう構想を練ります。

伝える文章
行政の公文書のような文章では、ただでさえ難しい内容のも

のがさらに難しく、楽しい話題のものですら魅力が半減してしまいます。伝えたいことや伝えなければならぬことを理解していただけるよう、読者の目線に立った文章を何度も読み返しながら考えます。

魅せるレイアウト
広報紙の主要部分である文章をストレスなく読んでいただくためには、タイトルや画像、余白といった要素の効果的な配置も重要です。雑誌などを参考にしながら、読んでみたいと感じていただけるような、魅力的かつ見やすいレイアウトにするため、試行錯誤を重ねます。

いま手にとっている広報ふくち 意外と知らないその裏側

みなさんの協力によって町が発行する広報紙には、たくさんの想いが込められています。毎月、何気なく手にとって開く広報ふくち。その裏側をのぞいてみましょう。

町名	発行部数	平均仕様	金額	一部単価
合併前	旧赤池町	20ページ (フルカラー&2色刷り)	320,000円	88.89円
	旧金田町	20ページ (フルカラー&2色刷り)	318,500円	98.00円
	旧方城町	20ページ (フルカラー&モノクロ)	409,500円	163.80円
	旧町合計	20ページ	1,048,000円	平均単価 112.09円
現在	福智町	20ページの場合 (フルカラー&モノクロ)	315,000円	32.47円

広報ふくちは高いの？
平成21年度に発行された広報ふくちは平均24ページ。月に1回、9千700部を発行し、行政組長とおしてご家庭に配布されています。

「広報紙にお金をかけ過ぎなのでは」といったご意見をいただくことがあります。市町村の規模によって情報量や発行部数が違うため、価格を正しく比較することはできませんが、左の表で、合併前と現在の広報紙発行経費を比較してみました。

発行部数が増えたことにより単価が安くなったこと、印刷前までの編集をすべて職員が行うことで、旧町合計に比べ、格安で発行できていることがお分かりになるかと思えます。

また、合併初年度に比べ、イベントや情報の一本化、コーナーの削減などにより、平均ページ数は約14ページ少なくなっています。さらに平成20年6月からは、一部のページをモノクロにすることで、全20ページの場合、以前のフルカラー印刷より1回につき6千円安く発行できるようになりました。

このように広報ふくちでは、なるべく発行経費を安く抑えつつ、みなさんにより親しまれる広報紙をお届けできるよう努力しています。



価値ある広報紙に

「価値」とはまさに費用対効果です。百円払っても50円分しか楽しめなければ「損した」気分になります。1万円払っても2万円分得るものがあれば「得した」と感じられます。

町の大切なお金を使って発行されている広報紙は、まず、みなさんに手にとっていただくことが必須条件です。いくら安く発行できても、伝えたい内容が正しく伝わらなかつたり、ましてや読んでもらえないようであれば、意味がありません。

広報ふくちは、この費用対効果を考えながら、金額以上の情報+αが得られる「価値の高い」紙面づくりを目指して、編集しています。



全国の広報紙

ところ変われば
広報紙も変わる
「わがまち専用」の情報紙

全 国には現在1千728の市町村があり、その自治体の数だけ広報紙があります。

広報紙のタイトル

福岡県宮若市の「宮若生活」、山口県下関市の「かがやき」、秋田県大仙市の「だいせん日和」、北海道芽室町の「Smile(スマイル)」など、ユニークなタイトルの広報紙もあります。

毎月の定番コーナー

「仲良し夫婦」「地元食材」昔の風景」など、同じ題材を毎月紹介するコーナーがよく見られます。お隣の糸田町では広報担当が町内で出会った人に突撃取材するコーナーがあり、町民総登場を目指しているそうです。それぞれのまちで、親しまれる紙面づくりの工夫がされています。

